

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 19 日現在

機関番号：15101

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26381323

研究課題名(和文) 知的障害児入所施設における被虐待児の評価と効果的な支援方法の検討

研究課題名(英文) Evaluation and Effective Support Methods of Male Abused Children in Mental Retarded Children

研究代表者

井上 雅彦 (masahiko, inoue)

鳥取大学・医学(系)研究科(研究院)・教授

研究者番号：20252819

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は特に知的障害児児童入所施設における被虐待児童生徒における支援方法について検討することを目的としている。初年度は特別支援学校在籍児童生徒125名を対象にABC-J及び強度行動障害判定基準を実施したところABC-Jと強度行動障害判定基準の両方で入所児群の得点が統計的に有意に高いことが示された。虐待傾向や虐待を主訴として面談した母子事例について、認知行動療法による心理的支援の有効性が示唆された。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this research is to examine the support method for abusing child students especially in child introduction facilities for children with intellectual disabilities. The ABC-J and the criteria for judging strong behavioral disorder were applied to 125 students enrolled in special support schools, and the criteria for ABC-J and Strong Behavioral Disorder were statistically significant. It was shown to be high. It was suggested that psychological support by cognitive behavioral therapy was effective on mother-child cases with abusive tendencies and abuses.

研究分野：発達障害

キーワード：知的障害 発達障害 虐待 入所施設 家族支援

1. 研究開始当初の背景

児童相談所において受理される児童虐待相談は、平成24年速報値で年間66,807万件あまりと増加傾向が続いている。児童虐待研究は、主に虐待の実態と加害者要因に焦点を当てられており、子ども側のリスクファクターについての研究は少ない。児相の虐待相談数における障害を持つ子どもの比率は15.4%という報告がなされ、幼年期の障害は、児童虐待のリスク要因の一つと考えられる。特に知的障害・発達障害児に対する虐待の実態としては身体的虐待や性的虐待の多さが報告されているが被虐待児の行動特性、支援についての研究は少ない。また知的障害・発達障害児の虐待については、受け入れ先となる知的障害児童入所施設などでも虐待による措置ケースの増加や、虐待による二次障害としての行動障害から処遇の困難性が指摘されており、新規受け入れが困難となっている施設も多い。さらに里親制度においても虐待を受けた発達障害の示す行動障害から養育困難をきたすケースも多く、虐待を受けた知的障害児・発達障害児の実態や、行動特性、支援ニーズの特徴、有効な支援方法やシステムなどは未だ明確になっておらず、予防と治療、そして社会適応に至るケアシステムは未確立であり社会的問題となっている。

2. 研究の目的

本研究では虐待を受け施設入所に至った知的障害または発達障害児の実態を調査し、入所施設及び学校、地域等における有効な支援方法について検討することを目的とした。

3. 研究の方法

(1)知的障害児童生徒における虐待と行動障害の関連：知的障害児童入所施設併設の知的障害特別支援学校在籍児童生徒125名を対象にABC-J及び強度行動障害判定基準を実施し、施設入所の児童生徒、虐待経験の有無と行動障害の関係について分析した。

(2)知的障害児入所施設における被虐待児の実態と支援に関する訪問調査：知的障害児童入所施設3施設の実態と課題について聞き取り調査を実施した。

(3)知的障害及び自閉症のある被虐待児の治療に関する事例研究：被虐待経験と行動障害のある児童とその保護者を対象に、ペアレントトレーニング、認知行動療法、機能分析(functional analysis Carr 1980)などを組み合わせた心理療法を実施し、その効果を検証した。

4. 研究成果

特別支援学校在籍児童生徒125名を対象にABC-J及び強度行動障害判定基準を実施したところABC-Jと強度行動障害判定基準の両方で入所児群の得点が有意に高く、また虐待経験と行動障害の得点の高さとの関連が示された。また知的障害児童入所施設に対する聞き取り調査においては、知的障害児童入所施設において、約半数の入所児童生徒が措置入所であり、契約入所の場合は虐待が疑われる

事例から経済的理由、訓練的な入所まで多様なニーズがあり、職員は広範な対応を求められていることが示された。課題として行動障害に関連する客観的なアセスメントの活用、入所後の行動障害への対応と医療機関や学校、その他の専門機関との連携、18歳以上の生徒の次の生活の場所が見つけれないという実態も明らかになった。事例研究の結果、グループペアレントトレーニングに一定の効果を確認したが、個別支援を併用することの有効性が示され、前提条件としてセーフティネットの確認と形成、来談行動の強化、共感的態度、虐待的行為の背景要因に対する聞き取り、客観的なアセスメント、行動観察表など自己記録と具体的なフィードバック、母子並行介入の重要性が示唆された。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 24 件)

五味洋一、井上雅彦、強度行動障害のある人の保護者の支援ニーズ—ライフステージによる変化に着目したヒアリング調査から—、発達障害研究、査読有、38(2)、2016、224-234

井上雅彦、養育困難を持ち自閉症スペクトラム障害が疑われた母親への心理的アプローチ、発達障害研究、査読有、38(2)、2016、178-183

竹田伸也、井上雅彦、金子周平、南前恵子、養護教諭のストレス反応と自己効力感に対する認知行動療法プログラムの有効性—非無作為化試験—、行動療法研究、査読有、42(1)、2016、63-72

井上雅彦、稲田尚子、大羽沢子、Christopher J. Smith、前垣義弘、遠隔地域におけるICT技術を用いた自閉症の早期評価システムの開発、研究助成論文集 明治安田こころの健康財団、査読無、(51)、2016、43-50

井上雅彦、発達障害者を持つ親・家族支援について、NPO法人日本ボテージ協会、査読無、(119)、2016、3

井上雅彦、自閉症スペクトラムにおける感覚異常に関する行動評価と機能分析

アプローチ、発達障害研究、査読有、37(4)、2015、324-333

原口英之、加藤香、井上雅彦、わが国におけるペアレント・メンター養成研修の現状と今後の課題、自閉症スペクトラム研究、査読有、12 (2)、2015、63-67

Matsuo, R, Inoue, M. & Maegaki, Y, A Comparative Evaluation of Parent Training for Parents of Adolescents with Developmental Disorders, *Yonago Acta medica*, 査読有、58(3)、2015、109

宮崎美江、宮崎光明、井上雅彦、発達障害のある子どものきょうだい間のトラブルに対するペアレント・トレーニングの効果、小児の精神と神経、査読有、55 (2)、2015、129-142

Inada N, Ito H, Yasunaga K, Kuroda M, Iwanaga R, Hagiwara T, Tani I, Yukihiro R, Uchiyama T, Ogasahara K, Hara K, Inoue M., Murakami T, Someki F, Nakamura K, Sugiyama T, Uchida H, Ichikawa H, Kawakubo Y, Kano Y, Tsujii M, Psychometric properties of the Repetitive Behavior Scale-Revised for individuals with autism spectrum disorder in Japan, *Research in Autism Spectrum Disorder*, 査読有、(15)、2015、60-68

谷伊織、伊藤大幸、平島太郎、岩永竜一郎、萩原拓、行廣隆次、内山登紀夫、小笠原恵、黒田美保、稲田尚子、原幸一、井上雅彦、村上隆、染木史緒、中村和彦、杉山登志郎、内田裕之、市川宏伸、辻井正次、日本版短縮感覚プロフィールの標準化、標準値および信頼性・妥当性の検討、*精神医学*、査読有、57(6)、2015、419-429

原口英之、井上雅彦、山口穂菜美、神尾陽子、発達障害のある子どもをもつ親に対するピアサポート；わが国におけるペ

アレト・メンターによる親支援活動の現状と今後の課題、*精神保健研究*、査読有、(61)、2015、49-56

平本厚美、井上雅彦、高貝蹴、レット症候群における合目的的な手の使用の形成、子どものこころと脳の発達、査読有、6 (1)、2015、42-47

井上雅彦、行動論的アプローチはASD治療の到達点として何を指すのか、*精神療法* (金剛出版)、査読無、41(4)、2015、498-504

鳥居深雪、河崎佳子、海津亜希子、佐藤克敏、鳥越隆士、井上雅彦、特別支援教育の展望：インクルーシブ教育の目指すべきもの-ユニバーサルデザインと専門性、*教育心理学年報*、査読無、(54)、2015、173-180

式部陽子、岩坂英巳、井上雅彦、高等学校定時制課程における行動面・学習面で「気になる」生徒の支援に関する教員へのコンサルテーション効果の検討、*次世代教員養成センター研究紀要 = Bulletin of Teacher Education Center for the Future Generation*、査読無、(1)、2015、75-81

東野正幸、川村尚、井上雅彦、強度行動障害のある人の支援を目的とした行動測定支援アプリケーションと情報共有支援システムの検討、*電子情報通信学会技術研究報告*、査読無、114(497)、2015、41-43

井上雅彦、発達障害と家族支援、*精神療法* (金剛出版)、査読無、41(4)、2015、577 - 584

井上雅彦、応用行動分析を用いた発達障害の子どもへの支援、査読無、41(2)、2015、185 - 189

太田真貴、竹田伸也、濱田実央、井上雅彦、就労者の認知の歪み尺度の作成、*認知療法研究*、査読有、7(1)、2014、76-83

- ②① 宮崎光明、加藤永歳、井上雅彦、自閉症児に対する P E C S と動作模様を用いたアイコンタクトおよび発生・発語の促進,行動分析学研究、査読有、29(1)、2014、20-31
- ②② 宮崎光明、福永顕、宮崎美江、井上雅彦、青年期の広汎性発達障害に対する生活シミュレーショントレーニングの効果、LD 研究、査読有、23(3)、2014、320-330
- ②③ 井上菜穂、井上雅彦、前垣義弘、障害児のきょうだいの心理的支援プログラムの効果、米子医学雑誌、査読有、65(4-5)、2014、101-109
- ②④ 平島太郎、伊藤大幸、岩永竜一郎、萩原拓、谷伊織、行廣隆次、松本かおり、内山登紀夫、小笠原恵、黒田美保、稲田尚子、井上雅彦、村上隆、染木史緒、中村和彦、杉山登志郎、内田裕之、市川宏伸、辻井正次、日本版青年・成人感覚プロフィールの構成概念妥当性 自閉症サンプルに基づく検討,精神医学、査読有、56(2)、2014、123-132

〔学会発表〕(計 30 件)

村瀬裕美、榎本大貴、井上雅彦、発達障害のある子どもの親に対する鳥取大学方式ペアレント・トレーニングの短縮版の効果-実施郡と非実施郡の比較分析、日本児童青年精神医学会第 57 回大会発表論文集 2016 年 10 月 27 日~29 日、岡山コンベンションセンター、岡山県岡山市

村瀬裕美、榎本大貴、井上雅彦、発達障害のある子どもの親に対する鳥取大学方式ペアレント・トレーニングの短縮版の効果-障害種別の差異における効果と親のストレス様相と効果の分析、日本児童青年精神医学会第 57 回大会発表論文集、2016 年 10 月 27 日~29 日、岡山コンベンションセンター、岡山県岡山市

井上雅彦、自閉症スペクトラム症への早期療育は何を目指すのか、日本児童青年精神医学会第 57 回大会発表論文集、2016 年 10 月 27 日~29 日、岡山コンベンションセンター、岡山県岡山市

松下慎之介、井上雅彦、拒否的な行動が顕著な PDD 移動に対する機能分析と行動契約の効果、日本認知・行動療法学会第 42 回大会発表論文集、2016 年 10 月 8 日~10 日、アスティ徳島、徳島県徳島市

井上雅彦、「高機能自閉症スペクトラム症に対する認知行動療法-環境的側面に対する介入に着目して考える-」、日本認知・行動療法学会第 42 回大会発表論文集、2016 年 10 月 8 日~10 日、アスティ徳島、徳島県徳島市

井上雅彦、「日常臨床におけるケースフォーミュレーションと介入の整合性-さまざまな認知・行動的視点からの検討-」、日本認知・行動療法学会第 42 回大会発表論文集、2016 年 10 月 8 日~10 日、アスティ徳島、徳島県徳島市

大羽沢子、井上雅彦、般化を促す段階的課題を取り入れた療育プログラムの開発、日本特殊教育学会第 54 回大会発表論文集、2016 年 9 月 17 日~18 日、新潟コンベンションセンター朱鷺メッセ、新潟県新潟市

式部陽子、鳥居深雪、井上雅彦、高等学校定時制課程における特別支援教育に関する教員研修コンサルテーション実施後の継続研修の効果の検討、日本特殊教育学会第 54 回大会発表論文集、2016 年 9 月 17 日~18 日、新潟コンベンションセンター朱鷺メッセ、新潟県新潟市

阪本清美、井上雅彦、強度行動障害のある児童生徒を担当した教師における心理的変容過程、日本特殊教育学会第 54 回大会発表論文集、2016 年 9 月 17 日~18 日、新潟コンベンションセンター朱鷺メッセ、

新潟県新潟市

金子尚弘、志賀利一、野口幸弘、井上雅彦、久保田小枝子、強度行動障害と行動分析学、日本行動分析学会第34回大会発表論文集、2016年9月9日～11日、大阪市立大学杉本キャンパス、大阪府大阪市

井上雅彦、多文化から発達障害児を抱える親の育児ストレスを考える～よりよい支援や制度の構築に向け～、日本自閉症スペクトラム学会第15回大会発表論文集、2016年8月27日～28日、白百合女子大学、東京都調布市

井上雅彦、発達障害児のペアレントトレーニング、日本発達障害学会第51回大会発表論文集、2016年8月27日～28日、京都教育大学、京都府京都市

阪本清美、大羽沢子、井上雅彦、発達障害を対象としたペアレント・トレーニングにおける父親講座の効果、日本発達障害学会第51回大会発表論文集、2016年8月27日～28日、京都教育大学、京都府京都市

Takezawa T、Yoshikawa T、Inoue M、Effectiveness of Family Psychoeducation Program for parents of Young Children With ASD International Meeting For Autism Research、2016.May.11-14日、Beltime Convention Center、アメリカ ボルティモア州

Inoue M、The Effects of Staff Training Program Using ``Strategy Sheet`` for Persons With Behavioral Disorders (Association for Behavior Analysis International, Eighth International Conference) 2015.Sep.27-29、ホテルグランヴィア京都、京都府京都市

Haraguchi H、Inoue M、Nakatani K、Current situation of early behavioral intervention services providers in

Japan (Association for Behavior Analysis International, Eighth International Conference.)、2015.Sep.27-29、ホテルグランヴィア京都、京都府京都市

阪本清美、藤家まり、大羽沢子、井上雅彦、ペアレントメンターの参加および父親講座を取り入れたペアレント・トレーニングの効果(1)、日本自閉症協会スペクトラム学会第14回研究大会発表論文集、2015年8月22日～23日、札幌学院大学、北海道江別市

藤家まり、阪本清美、大羽沢子、井上雅彦、ペアレントメンターの参加および父親講座を取り入れたペアレント・トレーニングの効果(2)、日本自閉症協会スペクトラム学会第14回研究大会発表論文集、2015年8月22日～23日、札幌学院大学、北海道江別市

大羽沢子、井上雅彦、知的特別支援学校における不登校児童生徒の実態と対応、日本自閉症協会スペクトラム学会第14回研究大会発表論文集、2015年8月22日～23日、札幌学院大学、北海道江別市

阪本清美、藤家まり、大羽沢子、井上雅彦、知的障害児特別支援学校における行動障害のある児童生徒に関する実態調査(1)、日本発達障害学会第48回大会発表論文集、2015年7月4日～5日、東京学芸大学 小金井キャンパス、東京都小金井市

②① 藤家まり、阪本清美、大羽沢子、井上雅彦、知的障害児特別支援学校における行動障害のある児童生徒に関する実態調査(2)、日本発達障害学会第48回大会発表論文集、2015年7月4日～5日、東京学芸大学 小金井キャンパス、東京都小金井市

②② Takezawa T、Haraguchi H、Yoshikawa T、Ogura M、Adachi J、Inoue M、

Development of a Parent Mentor Training Program in Japan International Meeting, 2015. May. 13-16, Grand America Hotel, Salt Lake City Utah USA

- ⑳ Inoue M, Gomi Y, The Developmental Process of Severe Behavior Disorder in the Long-Term, Ninth Annual Autism Conference, 2015. Jan. 24-25, マリオネットホテル, Las Vegas Nevada, USA
- ㉑ 井上雅彦, 親訓練の対象と実施機会を拡大するために-障害種・特定の発達段階に特化したプログラムと実施者養成プログラムの効果-, 日本LD学会第23回大会発表論文集, 2014年11月23日~24日, 大阪国際会議場(グランキューブ大阪) 大阪府大阪市
- ㉒ 井上雅彦, 特別支援教育の展望: インクルーシブ教育の目指すべきもの-ユニバーサルデザインと専門性-, 日本教育心理学会第56回大会発表論文集, 2014年11月7日~9日, 神戸国際会議場, 兵庫県神戸市
- ㉓ 井上雅彦, 「認知行動療法を認知行動療法にしているもの」, 日本認知・行動療法学会第40回大会発表論文集, 2014年11月1日~3日, 富山国際会議場大手町フォーラム他, 富山県富山市
- ㉔ 鍋田翔平, 竹田伸也, 井上雅彦, 青年期における注意制御, メタ認知がレジリエンスに与える影響, 日本認知・行動療法学会第40回大会発表論文集, 2014年11月1日~3日, 富山国際会議場, 富山県富山市
- ㉕ 小倉正義, 綾木香名子, 原口英之, 加藤香, 安達潤, 吉川徹, 竹澤大史, 井上雅彦, ペアレント・メンター活動における実態とメンターの意識(1) - 動機, 援助者利得, 負担感に着目した実態調査 -, 第55回日本児童青年精神医学

会総会抄録集, 2014年10月11日~13日, アクトシティ浜松, 静岡県浜松市

- ㉖ 綾木香名子, 原口英之, 小倉正義, 加藤香, 安達潤, 吉川徹, 竹澤大史, 井上雅彦, ペアレント・メンター活動における実態とメンターの意識(2) - 援助者利得に関連する要因の検討 -, 第55回日本児童青年精神医学会総会抄録集, 2014年10月11日~13日, アクトシティ浜松, 静岡県浜松市
- ㉗ 井上雅彦, 行動障害への支援におけるPARS(PARS-TR)の活用, 日本児童青年精神医学会第55回大会発表論文集, 2014年10月11日~13日, アクトシティ浜松, 静岡県浜松市

6. 研究組織

(1) 研究代表者

井上雅彦 (masahiko inoue)
鳥取大学, 大学院医学系研究科・教授
研究者番号: 20252819